

ルニ若クハナシ云々 因コ云フ昨年某縣ノ醫師ハ石炭酸ヲ手拭ニ濡シテ鼻ヨリ後ロヘ
結付シ然ル後チ患者ヲ診斷セシ事アリ又某縣コテハ民家ニ培養スル桃梨ノ實ヲ拂ヒ落
シ一切之ヲ賣ラシメズ或ル府廳コテハ南海ヨリ來ル魚貝ノ類ノ販賣ヲ禁セシ等實ニ笑
フニ堪タリ該病ノ豫防ナリトテ肉食ガ害ナレハ果物ヲ多少食スルガ却テ清潔ノ功ヲ奏
スルト聞ケリ

廿六日 金曜日 晴 舊十六日 正午寒暖計六十五度

井上外務卿ヨリ松方内務卿ヘ左ノ照會アリシト今般和蘭國ヘ我邦公使館ヲ新置候コ付
テハ諸官省ニ於テ印行調製相成居候書籍見本類ノ内我邦文化旺進ノ一斑ヲ知ルコ足ル
ベキ者ハ可成右公使館ニ備ヘ置キ對客ノ席等ニハ我邦進歩ノ近況ヲ知ラシメ候一助ニ
相供度存候間是迄在外各公使館ヘ御送知相成居候分并ニ未タ御送致無之分共一同御送
致相成候度此段及御依頼候也

佛國政府内閣ノ變更ハ客歲一月ヨリ萌芽ヲ生シ同十二月二十八日ニ至テ其果ヲ見ル大
統領ハ舊各省長官ノ辭職ヲ甘受シ新ニ諸卿ヲ命シタル職員左ノ如シ

- 首相兼外務卿 舊工部卿 議官フレイシチー 司法卿 新任 議官カツ
- 内務兼教務卿 舊卿 議員ルペール 大藏卿 新任 同マギヤン
- 陸軍卿 新任 陸軍中將フアール 海軍卿 舊卿 海軍中將ジョーレキベ
- 文部兼美術卿 舊卿 議員シユールフェリ 工部卿 新任 議官ウハコフー
- 農商務卿 舊卿 議員チラール 郵便電信事務卿 舊卿コシユリー

廿七日 土曜日 晴 舊十七日 正午寒暖計六十八度
太政官ニ於テ内閣日則チ左ノ如ク定メラレタリ○内閣日則 午前第九時大臣參議以下

出勤(但シ事故アリ遲參ノ節ハ其旨午前九時マデニ必ズ届ケ出ベシ)○同第十時 臨御
○同時大臣參議各列席○内閣書記官上奏ノ書類ヲ朗讀シ大臣要務ヲ奏問ス○參議其主
任ノ事ニ付理由ヲ辨白ス○當日出席ノ諸省卿擔任ノ事件ヲ上陳ス(但シ出席ノ順序ハ
火曜日ハ内務卿大藏卿司法卿金曜日ハ陸軍卿海軍卿文部卿工部卿ノ如シ)○正午諸省
卿退出○御晝食ノ爲メ入御○午後第一時 臨御○參議ハ 臨御中ト雖モ要務有之節ハ
主任ノ各部ニ出席スルヲ得ル○水曜日ハ例刻ヨリ諸省卿一同出席○土曜日ハ回覽書類
ノ其機密ニ涉ル者ヲ除クノ外(新聞反譯公使館月次報告)書記官朗讀シ大臣參議之レニ
檢印ス

日本全國ノ花柳遊廓ハ總計二百零七ヶ所アリト

廿八日 日曜日 晴 舊十八日 正午寒暖計六十四度

各府縣減藩々債處分ノ儀ニ付宮城縣平民山口總兵衛ヨリ東京京都大坂神奈川兵庫山梨
福島宮城岩手山形新潟ノ知事令ヘ一編ノ願書ヲ呈シタリ其略左ノ如シ
謹テ知事令書記官各位閣下ニ具陳哀訴ス去明治六年太政官第八十二號ヲ以テ舊藩々ノ
負債ヲ區處セラル、ニ當リ特リ舊藩領以下十數藩即チ戊辰革命ノ際一時方向ヲ誤リ
タル者ノ負債ニ限リ政府之ヲ債フノ責ナシトセラレシヨリ其藩下ノ人民ハ忽チ産チ壞
リ家ヲ喪ナト困頓四方ニ流離シ父母兄弟妻子其居チ同ウスルヲ得ズ悲慘ノ情況實ニ酸
鼻ニ堪ヘザル者アリ抑モ該債タルヤ一モ他ノ藩債ト其性質ヲ異ニシ其用度ヲ殊ニセ
者ニ非ズ即チ弘化年度ヨリ慶應三年マテノ藩債ニシテ外寇防禦或ハ朝觀入衛等ノ經費
ニ充用セシ者ナルハ今復タ喋々スルヲ須ヒズ然ハ則チ其處分ニ於テ彼此同異アル可キ
等ナレ候令後日方向ヲ謬リタルモ前日藩主ガ藩屏ノ任ヲ奉ズルニ當リ人民ヨリ借入レ
之ヲ國用ニ充テタルヲ以テ決シテ藩ト俱ニ滅却スベキ者コアラズ而シテ舊藩主ノ家ハ已

ニ再興シ今日優遇ナ賜ハリナガテ却テ其人民ヲ樂テ願ミザルハ固トニ痛歎ノ至リヨシ
 テ賤民總兵衛窮カニ明治政府ノ爲メニ憾ナキ能ハズ總兵衛明治七年ニ郷里ヲ出シヨリ
 永ク閣下ニ彷徨シ建白上書ハ既ニ百五十有餘回ノ多キコ及ブト雖モ未ダ以テ微意ヲ上
 達スル能ハス朽餘ノ老羸加フルニ宿病ニ罹リ死且夕ニ迫ルモ力メテ自ラ鼓舞シ斃レテ
 而シテ後子已マント欲ス抑セ亦彼ノ四方ニ流離スル者ハ概テ閣位閣下治下ノ人民ナレ
 バ則チ閣下等ノ親シク其慘狀ヲ目撃セラル、所ナリ治下ノ人民ニシテ一モ其所ヲ得ザ
 ル者アラバ則チ閣下等ノ安シセザル所ナルベシ閣下等幸ニ牧民ノ重任ニ居リ且ツ今ヤ
 議員トナリテ言責アリ願クハ爲メニ大政府ニ建言セラレ治下ノ人民ヲシテ各其所ヲ得
 セシメラレシテ再拜頓首謹言

廿九日

月曜日

曇

舊十九日

正午寒暖計六十一度

廿九日

月曜日

曇

舊十九日

正午寒暖計六十一度

三十日

火曜日

晴

舊廿日

正午寒暖計六十四度

内務大藏兩省ノ警備ハ從來第一方面ノ巡查ヲ以テ之ニ充テラレシガ自衛警備部ノ巡查
 ナリテ警備セラル、ニ決セリト
 去ル二月ノ各港輸出入月表ヲ閱スニ輸出ノ現價總計百八十萬九千五百二圓八十六錢四
 厘同輸入二百三十二萬五千三百五圓七十三錢九厘〇輸入ノ輸出ニ超過スル高五十一萬
 五千八百二圓八十七錢五厘〇關稅并ニ諸收入十七萬四千七百七十八圓四十三錢三厘〇
 貨幣并ニ金銀地金ノ輸出百二十一萬三千四百一圓六十一錢四厘同輸入二萬三千六百三
 十圓

卅一日

水曜日

雨

舊廿一日

正午寒暖計六十三度

大坂府下堂島ノ米商社ハ近頃非常ノ亂高下アリシヲ以テ一時相場ハ中止トナリ規則者
 ハ數百名ノ多キコ及ビト
 千住南組製絨所ニ於テ更ニ外國ニ七十馬力ノ器械ヲ依頼コナリ運送次第陸海軍下士官
 ニ給與サル、服地ヲ悉皆製造サレルト

四月一日

木曜日

晴

舊廿二日

正午寒暖計六十七度

昨日元老院ノ會議ニハ内閣委員トシテ渡邊大書記官ガ出席ナリシガ其ノ議ハ秘密ニ涉
 ルヲ以テ傍聽ヲ禁ゼラレタリ巷説ニ據レバ蓋シ同氏ノ擔當スル集會條例ノ議ニアラザ
 ルヤト其如何ハ我輩保證スル能ハザルナリ
 土佐ト伊豫ノ國界ニ屹立スル石鐵山神ニ毎歲賽スル者ノ内往々踪蹟ヲ失ナフ者アルコ
 因リ魔界ト稱シ來リシガ今回愛媛縣廳ニ於テ愚人ノ惑ヲ解ン爲メ該山ヲ精密ニ測量セ
 シコトヲ地理局ニ依頼サレシト聞ク

第二回勸業博覽會ノ總裁ハ北白川親王ニ命ゼラレタリ
 各裁判所ノ呼出シ狀ハ從來本人不在ノ時ハ其隣家ニ附託セシガ往々不都合ノ儀アルヲ
 以テ自今若シ不在ノ節ハ其地ノ差配人ニ渡シ證印ヲ捺セルコトニ決定セラレシト聞ク

二日

金曜日

晴

舊廿三日

正午寒暖計五十九度

東京中ノ書林ノ協議ニテ本月中上野公園ノ某坊ニテ古書博覽會ヲ催スヤニ聞ク
 聞ク所ニ據レバ改正教育令中ノ不都合ノ箇條ヲ細記シテ四五ノ縣廳ヨリ其筋ハ呈シタ
 リト

豫テ報道シタル東京ヨリ高崎ニ布カル、鉄道ノ經費豫算ハ凡ソ二百萬圓ニシテ一英里

三萬五千圓ノ見込ナリト

土曜日 雨 舊廿四日

正午寒暖計五十七度

東海道小田原驛ハ道路狹クマテ馬車通行ノ爲メニ不都合ニ付今回更ニ二間通り其中ヲ廣ケラルト云フ

村田少佐ノ發明ニ係ル小銃ハ今度軍用銃ニ定メラレ村田銃ト唱ヘラルカニ聞ク
嚮キニ府下ノ各營業組合ヲ廢セラレタルニ付從前下付ニナリシ組合鑑札ハ無効ノ者ナリト申シ渡サレタリ

日曜日 雨 舊廿五日

正午寒暖計五十八度

四年ノ秋海軍省ヨリ英國ヘ注文セラレシ四艘ノ水雷火船ハ本年五六月ニ成工シ本邦ヘ廻サルハト

月曜日 晴 舊廿六日

正午寒暖計五十六度

舊琉球藩王華族尙泰君ヘ更ニ姓ヲ下賜セラレトノ説アリ
本日マデ我輩ノ耳朶ニ達スル國會開設有志者ノ奮起シタル縣々ハ左ノ如シ○福岡○岡山○高知○徳嶋○宮城○山形○山梨○静岡○鹿児島○千葉○茨城○大坂府○新潟○群馬○青森○石川○島根○長崎等ナリ

府下小學校學科中ヘ唱歌ノ一科ヲ増置サルハト云フ
西京ノ豐國神社ヘ宮内省御物ノ内ナル備前在光ノ銘刀ヲ寄附セラレタリ

火曜日 曇 舊廿七日

正午寒暖計五十四度

府下水道改正委員ノ調査ニ據レバ該水道改正ノ豫算ハ凡ソ三百五十萬圓餘ナリト云フ
沖繩縣ハ飲水ニ乏シク多ク天水ヲ仰クノヨニテ古來ヨリ困難極マリ無リシガ置縣以來

官ヨリ井ヲ堀ル事ニ着手セラレシニ各村ヨリモ二千六十九人ノ人夫ヲ出シ去ル十月ヨリ本年二月マデニ數個ノ井戸全ク落成シ日ヲ追テ清水ノ湧出ルニツ土人ノ喜ビ一方ナラズ編ヘニ此レ 天皇陛下ノ恩澤ナリト拊舞シタルヨ
彼ノ野蕪港ハ來ル六月中旬ヨリ御拂下ケ地ヘ家作ノ建築ヲ許サレトカ此ニ因テ俄カニ地價騰貴シ石ノ巻邊ハ既ニ一坪三四圓ニ至リシト云フ

水曜日 晴 舊廿八日

正午寒暖計六十二度

各地方ニ於テ紅茶ノ製造ガ増殖シ爲メニ勸農局ヘ試験ヲ願ヒ出ル者日ニ加ハルニ付キ本年ヨリ各地方ヘ試験所ヲ置キ同局ヨリ官吏ガ派出シテ試験サルハヤノ説アリ
勢州山田ノ有志者ガ勸業談會ナル者ヲ設ケ同志ヲ募リ農工商業ノ利害得失ヲ討論シテ之レガ改良ヲ謀ルト云フ

木曜日 晴 舊廿九日

正午寒暖計六十一度

北海道ノ函館小樽札幌ノ三ヶ所ヘ暴風號報球ヲ設ケラル其方法ヲ聞クニ四邊ニ障害ナキ地ヘ長竿を樹テ若シ天災ノ兆アレバ其竿頭ニ白晝ハ直徑六尺ノ赤球ヲアケ夜ハ赤色ノ洋燈二ツヲ點シ專テ航海者ニ暴風アルヲ知ラシムルナリト云フ
秋田縣下仙北雄勝平鹿三郡ノ改良米ハ聲價頗ル宜ク且此程中鹿郡角間川村ノ豪商本郷吉右衛門最上廣胖等數名ガ發起人トナリ資金五萬圓ヲ募リ專テ米質改良ノ目的ヲ以テ改良會社ヲ組織セント出願シタリ

金曜日 晴 舊三十日

正午寒暖計六十六度

各廳經費中從前正貨幣渡シノ分ハ今度悉皆廢サレ自今需用ノ節ハ其廳ヨリ大藏省國債局ヘ照會シ交換スルコトニ決定セラレ各定價中存ニ付生ズル差金ヲ増額スヘキ旨夫々ヘ

通知セラレタリト
東京タイムス新聞ニ據レバ米國及ビ歐洲トモ近來我邦ノ物品類ナル流行シ殊ニ米國ノ
「コフコル」地方ハ日本ノ菓子大ニ行ナハレ並品竹骨ノ物ヨリ上等黒塗骨乃至象牙骨
透シ彫等ノ品類ニ至ルマデ之ヲ需用シ方今ハ交際ノ包贈ニ缺クベカラサル物ニ至リシ
ト云フ

十日

土曜日

晴 舊三月一日

正午寒暖計六十九度

董狐ハ白刃ノ机上ニ露露スルモ猶ホ其筆ヲ闕カズトハ雖モ若シ當路ノ疇穢ニ障リナバ
豈ヨク執筆ヲ保タン況ヤ政府ノ安否ヲヤ政府ガ人民ノ安寧ニ妨害ニ成ルベシト見認サ
ル者コ於テチヤ此レハソレト異ナリト雖モ弊社小笠原美治ハ本誌四十三号都部日乘
ニ福岡縣下國會有志者ノ草ニ他ノ新聞ニモ嘗テ掲載シタル彼ノ國會開設建言ノ趣意書
ヲ載タル廉チ以テ罰金百圓ヲ申付ラレタリ然ラバ則チ該趣意書ハ價ヒ百金ノ文章ト
謂フベキカ又報知新聞ノ假編輯長龜山篤郎殿モ同伴ニ付同様罰金百圓命セラレタリ此
ト合シテ二百金ノ文章ト云モ亦可ナラン呵々
去ル四日長崎石炭坑ノ第二坑中ニ於テ瓦斯破裂シ坑夫ノ内即死五十五人負傷スル者六
十人アリシト云フ
司法省ノ法學校ニテ教師ノ講義スル時ハ何等ノ人ヲ論ヒス傍聽ヲ許サルハト
内務省衛生局ハ一昨八日ヲ以テ改革セラレ更ニ庶務〇醫事〇統計〇出納ノ四課ヲ置ル
大坂愛國社ノ國會期成同盟規約ハ種々討論修正ノ末ハ全ク整頓セリ其規約ヲ掲載セン
チ好メド前條ニ懲リテ玆ニ筆ヲ碎ル

十一日

日曜日

風雨 舊二日

正午寒暖計七十一度

有栖川左大臣ガ護衛兵ヲ辭セラレシヨリ參議ノ内ニモ追々之ヲ辭セラレシガ大臣參議
ノ内ニテ猶ホ從前ノ方法ヲ主張セラル者ナリト聞シ
大坂府ハ此程外國人應接心得ヲ設ケラレタリ又同府下愛國社ノ會議ハ集會條例發令ニ
因テ差止ラレント然レモ會議整頓ノ後ニシテ該社ノ事務ニ敢テ差支ヘナカリシト云フ
十二日 月曜日 雨 舊三日 正午寒暖計五十五度
驛遞局ニテハ月給十二圓以上ノ御雇ハ殘ラズ本官ニ任ズルト聞ク
天皇陛下ノ御印篆刻ヲ都下有名ナル今井敬所金子藁香羽倉可亭等ニ命セラレタリ
和州郡山ノ舊知事柳澤保申氏ハ其舊藩ノ者ニ書ヲ寄セテ民權或ハ國會開設ナドノ以テ
ノ外ノ事ニ左袒シ方向ヲ誤ルベカラザル旨ヲ諭シタリト又愛國社ヨリ上呈スル國會願
望書携帶シ上京スル委員ハ片岡健吉河野廣中ノ二君ナリト

十三日

火曜日

曇 舊四日

正午寒暖計五十八度

全國ノ米商會所及ビ洋銀買賣取引所金銀貨幣取引所モ一時ニ停止セラレタリ
此程博物館ニ大蛇ヲ陳列サレシガ此ハ香港ノ太守「ヘンチツン」氏ノ贈ル所ニシテ和名
にしき蛇ト唱ヘ漢名ハ蝮蛇又ク南蛇ト稱スル者ニテ其長サ頭ヨリ尾マテ一丈餘腹部ノ
周リハ一尺八寸八分アリ
大藏省商務局ニ於テハ更ニ外國品取調掛リヲ置レタリ
此程ノ調査ニ係ル全國神官僧侶ノ人員表ヲ閱スニ十一万六千五百十九人ナリ

十四日

水曜日

晴 舊五日

正午寒暖計六十二度

自今海軍兵學校ノ卒業生徒ハ實地修行ノ爲メ先ツ日本海ヲ一周シ而ル後外國へ航海
シ上各軍艦ニ乗込テ命セラレト云フ

全國各宗一致ヲ教導博覽會ヲ芝公園内ニ開設スルノ説アリ其陣列スル者ハ各宗傳來ノ寶器什物等ナリト
豊前國企救郡大里村外三ヶ村ノ沿海官有地民有地十二丁六反七畝餘ヲ今般海岸防禦地ト定メラレタリ

十五日 木曜日 雨 舊六日 正午寒暖計六十三度
府下養育院へ今度三間四面ノ位牌堂ヲ建築コナリ同院設置以來千人近キ死者ヲ始メ此後モ入院中ニ死亡セシ者ノ位牌ヲ置キ時々吊祭スル爲ナリト

府下人民富岡知實ナル者ハ一種ノ機關車ヲ發明シ此ヲ以テ群馬檜木兩縣下へ人及ビ荷物ヲ搬運ヒン事ヲ出願セリ
外報ニ據レバ清魯ノ己ニ危急ニ迫リ將サニ兵馬ノ間ヲ相ヒ見テ其威權ヲ存セント欲スルニ至リタリト故ニヤ我邦駐在ノ支那人ハ百方奔走シテ銃器ヲ買フニ從事セリ

十六日 金曜日 雨 舊七日 正午寒暖計六十四度
天皇陛下ニハ本日禁煙ニ行幸セラレ山内豊範君ヨリ請願ノ要馬術ヲ天覽遊ハサル、ヨシ而シテ其要馬術ハ第一槍合太刀打第二槍刀組打第三ハ組打勝負ナリト

司法省修補課ニテ編纂サレシ治罪法案ハ己ニ成切シ該委員ヲ解カレ何レモ舊務ニ復サレタリ聞ク處ニ據レバ該法案ニハ陪審官ヲ設置セラル、ニ決ヒシテ元老院ノ審査ニ由テ廢棄ニナリシト

十七日 土曜日 曇 舊八日 正午寒暖計六十三度
昨日東京府廳勸業課へ府下ノ穀物問屋ヲ始メ味噌醬油油茶等ヲ營業スル者ヲ招集シ去ル十二日ヨリノ相場并ニ賣買ノ景況入津等昨日マデノ分ヲ本日午前迄ニ調査シ差出スベク且ツ本日ヨリ以後日々調査シ差出スベキ口達アリシト

之ヲ聞ク元老院ノ議定ニ附サレシ新刑法ノ今コ頒布セラレザルハ其原案ニ妾ヲ廢スル精神ノ箇條アルニ其議官一人ヲ除クノ外ハ皆廢ス可ラザル理由ヲ云ヒ爲メニ發令ノ躊躇スルナリト想フコ其議官ノ外ハ愛妾ノ爲メニ愛ヲ大事ト精神ヲ費ヤセシナルベシ
東本願寺ハ堂宇再建ナルニ由リ宮内省ヨリ金千圓ヲ賜ハリタリ
三州鳳來寺ヨリ北スル事三里斗リノ澤山ハ從來靈地ト稱シ人跡ナキ所ナリシカ此頃一ノ樵夫ガ突然至リシニ谷間ニ長キ石橋ヲ發見シタリト而シテ其橋ハ長四十八九間巾ハ二間計リ厚サ數尺ノ一枚コテ實ニ人造トハ想像セラレヌナレド架設セシ景狀ヲ察セバ天然自然ノ者トモ云ヒ難シト眞ニ稀有ノ物ト云ヘシ
上海メルキユリ新聞ニ曰ク北部ノ來報ニ據レバ滑魯ノ兵ハ「カシユカ」ノ國境ニテ兵端ヲ開キ魯兵ハ二百人ノ死アリシト
中央新聞公會ノ「ハルトマン」(佛國へ遁逃セシ人)ヨリ直接ニ得タル通信ニ據レバ本人ノ魯帝ヲ暗殺セント企テタルハ全ク虛無黨中コテ弑帝委員コ公撰セラレタル故ナルヨシ又々右ノ信通ニハモスコリニテ帝ヲ弑セントシタル時ノ事情ヲモ委ク記載シ且ツ本人ハ不日米國へ移住セントスル事ヲ書加ヘシト

十八日 日曜日 晴 舊九日 正午寒暖計五十九度
司法省中議政局并ニ修補課ヲ廢シ更ニ刑事局民事局ヲ置レタリ

大坂ノ愛國社ハ集會條例ノ發行ニ付同條例ニ基ヅキ更ニ其筋へ出願ノ事アリト昨今頻リニ協議中ナリト報アリ

十九日 月曜日 晴 舊十日 正午寒暖計六十三度
今回朝鮮國へ郵便局ヲ置レ不日赴任サレル前田總領事へ同局事務ノ擔任ヲ命セラレタリ

郡長以下ノ班位ヲ改正シ郡長ハ一等屬ノ上トシ郡書記ハ其同等ノ屬官及ヒ警部ノ次ニ定メラレヌ

二十日

火曜日

晴 舊十一日

正午寒暖計六十六度

横濱公園内ニ開設セシ物産陳列場ハ一作日ヲ以開場式ヲ行ヒ大藏卿モ臨レタリト
西京大宮通り一條下ル所ニ南朝ノ忠臣名和長年朝臣ノ討死サレシ舊蹟アレバ同地ノ有志輩ガ相謀リテ朝臣ノ遺勳ヲ追懷スル爲メ石碑ヲ建設セント出願セシヨコ已ニ許可ヲ得
タレバ不日着手スルトノ報アリ

去ル十四日午前三時頃信州上水内郡志賀古町牟禮ノ三ヶ村ヨリ農民等暴動ヲ企テ將サ
ニ押出サントスルノ警ヲ傳ヘタレバ長野警察所ヨリ數多ノ警部巡査出張セシニ暴徒ハ
已ニ解散セシ跡ユエ手ヲ盡シテ探偵ヲ漸ク旗持兩人ヲ縛シ其巨魁モ程ナク縛ニ就シト
云フ但シ暴動ノ原因ハ未タ判然セズト
西南ノ役ニ有名ナル肥後ノ田原坂ハ最モ激戦ノ地ニテ戦死者モ殊ニ多クアリシ故ヲ以
テ舊軍國事務所ニ於テ記念碑ヲ建立セントコトヲ企圖シ碑文ヲ當時ノ總督有栖川ノ宮ニ
請願シ已ニ脱稿ニモ及ハレシカハ不日該地ニ建立スト聞ク

廿一日

水曜日

晴 舊十二日

正午寒暖計六十六度

堺縣令稅所篤氏ハ國會開設願望者ヲ蛇蝎視シ管下人民ニ同願望者アリテハ容易ナラヌ
トテ警官ニ命ジ有無ヲ調査サレシニ何ゾ思ハシ二千五百有餘名ノ願望者アリクハ深
ク痛痒セシナ右有志者ノ中ニ縣令ノ舉動ヲ怒リ氏ヲ暗殺セント謀ル者アリト聞キ氏ハ
邸宅ニ探偵係リ數名ヲシテ晝夜詰切ニ居ラシムト海南新聞ニ見ユ
去ル十四日丹波水上郡西中村ノ北ニ一塊ノ火燃飛ビ來リ暫ク空中ニ舞シガ頓テ人

家ニ墮落シ恰モ西南ノ風烈シク竟ニ九十三戸焼失セシト已ニ又同國ノ報道ニ據ルコ
ト與謝郡脇村字嶽ニ落陥セシ火塊ノ始末ハ左ノ如シ 本年二月十八日朝大空火ノ玉飛テ
開發ノ際其欠ヶ當組内脇村松上甚右衛門拾ヒ得候事實御尋有之候處本人ヨリ差出候書
面之通ニ御座候間則寫相添へ御答申上候以上
明治十三年四月二日 與謝郡第二組 戶長 千賀金三郎
〔寫シ〕明治十三年二月十八日午前第六時ト覺シキ頃私何心ナク居宅表戸口ノ外へ立出
候處俄然天ニ當テ東方ヨリ西南ノ部へ火ノ玉飛テ開發ス其際發響ト共ニ私シテ居候
傍へ何物哉天降候ニ付直チニ拾ヒ取ント手ニ取リ揚候砌聊カ温氣ヲ含ニ有之猶再三檢
視候處〔堅一寸二分計巾凡五分計厚サ一分計〕全ク黒石ノ如ク物ニ有之候間該品相添
御届申上候也

明治十三年二月十八日

與謝郡第二組脇村之内字嶽

松上甚右衛門

與謝郡長長田重遠殿

右ニ因テ京都舍密局ハ教師ワクテル氏ニ就テ質問セシコ左ノ意見ヲ述ケリト
隕石ノ外皮ヲ見ルニ其性隕石ノ如ク亦四月二日宮津舍密試驗所ヨリ報告有之候隕石景
況書ニヨレバ全ク真正ノ空氣石ト見做テ可ナリ然レモ此石ヲ分析シ〔ニツケル〕ノ含有
ヲ証スルヲ得ハ尙一層明晰ナラン之レ蓋シ本邦〔コツケル〕鐵ノ存在希ナルヲ以也

廿二日

水曜日

雨 舊十三日

正午寒暖計六十八度

徳島縣廳ハ名東郡寺島村一番地ニ置レ去月廿日ヨリ開廳事務ヲ取扱カハルト聞ク
開拓使ハ北海道地志編纂掛リテ置キ小牧權大書記官ガ其掛リニ命セラレタリ其編纂ノ
科目ヲ舉レバ地理風俗政治外事物産雜記ナリト
方今ノ如ク洋銀ト日本金銀ノ騰貴セシハ未タ聞ザル所ナリ洋銀ハ已ニ一圓六十錢近ク

進日本銀ハ一圓五十四五錢ニ騰リタリ
尾州碧海郡新用水路ハ去ル十八日ヲ以テ成工式ヲ行ナヒシガ臨場ノ人々ハ松方内務卿
石井土木局長小崎岐阜縣令國貞愛知縣令其外各郡長等ニテ其用水ノ源ナル今村コ於テ
式ヲ行ヒ祝文ノ朗讀演說等モアリテ頗ル盛ンナリント云フ

廿三日

金曜日

曇 舊十四日

正午寒暖計七十度

自今代言ヲ依頼サレタル者ハ東京裁判所ノ民事課へ届ケ出テ認可ノ上委任狀ヲ差出ス
事ニ定メラレタリト

司法省ハ反譯課編纂課書籍課ヲ廢シ更ニ議事局職員課表記課生徒課ヲ置レ省中ノ局課
ヲ四局七課ニ改正サレリ
本年北海道根室ニ張リ詰タル氷ハ近來稀ナル事ニテ海上へハ五尺モ出テ海底ハ二丈モ
入り爲メニ昆布ハ其根石ヲ摩擦サレ角菜(フノリ)モ同様収獲ハ不足ナラント

廿四日

土曜日

晴 舊十五日

正午寒暖計七十二度

愛媛縣下讚岐國小豆島ヲ一郡トナシ地理ノ便利ニ依リテ兵庫縣へ隸屬セラル、ヤノ説
朝鮮使節ハ今回ハ陸路ヲ東京ニ來ル、其上陸ハ未ク判然セズト云フ斯ク陸路ヲ來ル
ノ所由ヲ聞クニ維新以來我邦内部ノ景况以前ニ異ナリシヲ彼ノ政府モ兼テ傳聞シ其實
際ヲ見シガ爲メナリト
香港毎日新聞コ曰ク、トール會社ノ報道ニ係ル魯廷ガ更ラニ五艘ノ軍艦ヲ清國へ送り
タリト云ノ一報ハ蓋シ切迫ノ事情ヲ證明シタル最後ノ通信ナルベシ云々

廿五日

日曜日

半晴 舊十六日

正午寒暖計六十九度

有栖川宮及ヒ柳原前光君等コハ率先シテ函館地方ノ山林等ノ買上方ヲ開拓使へ依頼セ
ラレ開拓ニ着手サル、趣キナレバ他ノ華族モ是コ倣ヒ舊藩士ノ爲メコ地方買上ケラレ
開拓ニ從事スルナラントノ聞アリ

廿六日

月曜日

晴 舊十七日

正午寒暖計六十三度

不日諸官省ノ職制章程ヲ改正セラル、由己コ法制部參議大木山田ノ兩君ガ委員トシテ
取調ニ居ラル、トカ聞ク
今回九段坂上靖國神社境内ニ建設セラレシ近衛兵紀念碑ハ山縣陸軍中將ノ撰文ニテ長
三洲氏之ヲ書セリ其文コ曰ク西征之役、近衛勇戰、賊最畏焉、軍人相謀爲死者建碑表功、
皇上特賜金以助其費、嗚呼人孰無人、此可謂死有餘榮矣、
全國ノ電信柱へ三十間毎ニ一柱ヅ、建増サレ、ト云フ

廿七日

火曜日

晴 舊十八日

正午寒暖計六十九度

軍人ノ帽章及ヒ肩飾リ等ガ改正ニナル趣キコテ其要品ハ成メク丈日本品ヲ用ヒラルト
外報コ曰ク魯國ノ警視官ハ盧無黨追捕委員ヲ日英佛瑞西其他諸國へ派遣シタリト
各分署ニ衛生掛リヲ置キ各々其所轄内ヲ巡視シ下水芥溜等ノ不潔ナルハ掃除セシメ若
シ之ヲ怠ルトキハ分署ヨリ人ヲ雇テ掃除シ而ル後々其費用ヲ地主コ課サル、ト云フ
福島縣下岩城國警前郡中之港ヨリ岩代國安積郡々山及ヒ若松ヲ經テ新潟ニ達スル路線
ハ坂路極メテ多ク殊ニ峻阻コシテ旅人ノ往復荷物ノ運搬ニ不便ナレバト今般兩國人民
ヨリ一條ノ車路ヲ開通セン事ヲ企ツ己ニ有志者ノ醵金モ豫算七萬圓ノ半ヲ超過シタレ
ハ國庫ノ支出ヲ仰カズ不日着手スルト聞ク

二十八日

水曜日

曇 舊十九日

正午寒暖計七十一度

神戶在留ノ支那人ハ魯清葛藤ノ事件ニ付種々ノ浮説アルヲ傳聞シ恟々ニ堪ヘザルガ爲

本國理事館ニ依頼シ時々本國ノ景況ヲ電報サレタリ且ツ其都度館前ニ揭示シ在港ノ同國人コ示ス事ヲ請願セリト
忽チ塗抹ノ跡ヲ見ルカ知ラズト雖モ目今與羽地方ハ何故ニヤ人心不穩コテ處々ニ密會シ或ハ彈藥米穀等ヲ買取シ容易ナラザル風説アルニヨリ實地景況ヲ探ラントメ探偵方數名ヲ派遣サレシト聞ク思フニ之レ嘘説ナルヘシ

廿九日 水曜日 曇 舊廿日

正午寒暖計七十一度

大和國高市郡畝傍山東北陵即チ神武天皇ノ御陵ハ昨年ヨリ官吏出張セシメ修繕ニ着手セラレガ今般悉ク落成シタリト其結構ハ周圍ニ高サ五尺餘ノ石垣ヲ爲シ上チ芝土手ニ築キ是ハ六寸角ノ石ヲ以テ玉垣ヲ繞ラシ前門モ頗フル美麗ナリト
各府縣下ヨリ國會開設ノ建白或ハ請願書ト題シ政府ニ呈セシ者已ニ四十通ニ超過シタリト云リ何レモ數萬乃至數千人ノ連合セシ者ナレバ其人員ヲ算スレバ實ニ非常ノ數ナルヘシ而シテ唯々疑カフハ我東京人民ノ未タ曾テ一人ノ國會開設請願ニ苦慮スル者ヲ見ザルハ何等ノ所由カ蓋シ固有ノ無氣力ニ由テ然ルカ轉テ遺憾ニ堪ヘザルナリ

三十日 金曜日 雨 舊廿一日

正午寒暖計六十五度

過般ヨリ昨日マテ大藏省ヨリ橫濱ニ廻送サレシ銀貨ハ無慮七八十萬圓コテ尙ホ要求ニ依リテハ巨額ノ高ニ及ブトモ廻送サル、手筈ナリト之ニ因テ銀貨取引相場ハ下落ノ兆ヲ現シタリ

昨日マテ山梨縣三重縣并ニ京都府ニ御巡幸來ル六月十六日東京御發遣ノ旨ヲ仰セ出
滋賀縣下舊延曆寺ノ別院ナル滋賀院ハ此度特典ヲ以テ再興セラルト云フ
眞言宗ニテハ這般ノ大會議ニテ宗法ヲ舊ニ復シ肉食ヲ禁シ早晚妻帯ヲモ停メ專ラ宗祖

シ定メシ宗規ニ遵ラコトコナルト聞ク

五月一日 土曜日 雨 舊廿二日

正午寒暖計六十六度

聞ク支那政府ハ國中一般ニ鴉片煙草ヲ禁止シ今ヨリ二ヶ月ヲ過キテ猶ホ之ヲ犯ス者ハ嚴刑ニ處スベキ令ヲ布ケリト
司法省御雇并ニ局課限リノ雇寫字生(日數雇枚數雇ヲ除ク)ノ履歷書職員課ニテ至急入用ニ付各局課ニテ取總メ差出スベク且以後雇入ノ節ハ其時々漏ナク差出ス様廻達サレタリ

二日 日曜日 晴 舊廿三日

正午寒暖計六十七度

太政官中ニ恩給掛リノ一課ヲ置レタリ
兵庫縣下播磨國明石ハ去月廿六日午前七時コロヨリ颶風俄然起リ海上ノ激浪山ノ如ク起リ川岸ノ貸坐敷ハ爲メコ七八戸傾覆シ藝妓三四名ノ即死アリシト
元老院ノ中村箕作本田ノ三議官ハ建白取調ニ委員ニ拜セリト云フ
來十四年ヨリ巡査ノ夏服ハ上衣袴トモ内國製ノ白雲齋ヲ用ヒ肌着モ本綿ヲ用ヒラル、旨昨日中警視ヨリ夫々ニ達シタリ

維新以來女人モ登山ヲ許サレシ紀州高野山ハ本月限り再ヒ女人禁制ニナルト聞ク果シテ眞カ僞カハ知ラズト雖モ若シ眞トスレバ方今流行ノ好事ニ出タルナルヘシ

三日 月曜日 晴 舊廿四日 正午寒暖計七十度

ニユフリ新聞ニ歐洲諸國ノ學校及ヒ生徒ノ比較ヲ掲載セリ左ノ如シ

國名	人口	學校	生徒

日 乘

日耳曼國	四千二百萬	六萬	六百萬
大不列顛及愛蘭國	三千四百萬	五萬八千	三百萬
澳大利國	三千七百萬	三萬	三百萬
佛蘭西國	三千七百萬	七萬一千	四百七十萬
西班牙國	一千七百萬	二萬	百七十萬
伊太里國	二千八百萬	三萬二千	百十萬

沖繩縣ハ此程種痘假規則ヲ設ケラレ醫院(那覇四村久米泊及島尻地)首里診察所(首里)與那城番所(中頭地方)今歸仁番地(國頭地方)ノ四ヶ所ニテ施行ナリ右醫員詰所ヨリ一里以上ヲ隔ツ地方ハ同區域係リノ醫員ガ出張シテ種痘シ其料ハ金二錢ナリト

火曜日 半晴 舊廿五日 正午寒暖計七十二度

四日 風説ニ據レハ囚徒ノ情願ニ依リテ新聞紙其外律令ノ書籍等モ閱覽ヲ許サレ禁獄人ハ猶更差シ許サルト云フ

大藏省中へ外國品取調掛リテ設ケラレタルニ付キ是マデ各官省ニ購求セシ外國品消費ノ命高表并ニ物品ヲ認メ送達致サレ度旨ヲ夫々へ照會セラレシハ年々買入ル、物品ヲ檢査シ其中ニテ外國品ニ限ル物ノ買入ラレ餘ハ内國製ノ模造品ヲ用ヒラル、爲ト云大藏省檢査局ノ官吏數名ガ去ル廿九日開拓使へ出張シテ十二年度ノ會計ノ諸帳簿ヲ檢査セラレト
 戊辰ノ役ニ諸國ノ浪士ノ團結セシ赤心隊ナル者ハ當時ノ總督有栖川宮ニ從身シ各處ノ戰爭ニ功ヲ奏シ戰定後解隊トナリ其内官途ニ出ズシテ商賈トナリ或ハ農トナリ散ラテ四方ニ在ル者ヲ遣般詳細ニ調査サレ勳等或ハ從軍證ヲ附與サルト

五日 水曜日 晴 舊廿六日 正午寒暖計七十三度
 内務省圖書局ハ從來諸新聞紙ハ出板掛ニテ檢閱セラレシガ今般更ラニ新聞紙檢査掛リヲ設置セラレシト
 沖繩縣廳ハ首里へ建築ニナル趣ニテ豫算入費ノ調査書ヲ添へ同縣令ヨリ内務省へ下付金ヲ請レタリ

水曜日 晴 舊廿七日 正午寒暖計七十四度

六日 驛遞本局ノ新築ハ已ニ地所ノ見分モ濟ミ不日着手セラレ、ユへ本年中ニハ落成スベク其費用ハ凡二十万圓程ナリト又是迄本局トセラレシ元四日市ノ局ハ更ニ東京郵便本局ト改ムト聞リ

金曜日 雨 舊廿八日 正午寒暖計六十八度

七日 初メテ小笠原島ノ開拓ヲ起セヨリ當世ニ至ル迄ノ記録石碑ヲ同嶋ニ建立セラレ、其碑文左ノ如シ
 明治中興。革新。諸政。六。拓。疆。域。六年有大臣岩倉具視奉旨。下。小笠原島開拓ノ議。臣利通承之。内務卿。與。外務大藏海軍卿。議。上。ニ。方。略。制。可。乃。遣。外務四等出仕田邊太一等。往。見。之。太一等。還。具。狀。以。聞。九年。命。内務權少丞兼地理權助小花作助。勸。誘。土。民。墾。田。栽。樹。捕。魚。牧。牛。以。統。轄。全。島。初。文。祿。二年。小笠原貞頼始。檢。出。此。島。建。木。以。表。我。版。圖。因。名。小笠原島。延。寶。二年。幕府遣。島。谷。某。巡。

視其地享保十二年。貞賴曾孫貞任紹祖志。自往而請。漂流不還。既而內民稍々移住。外人亦有來駐者。文久元年。遣水野忠德等撫輯居民。頒布法令。建碑記顛末。而國家多故。經營未周。所以有待於今日之舉也。蓋我邦之爲地。海水四環。伊豆東南。北緯二十五六度。至三十五六度。屬島星羅。而本島居其一。甲斐伊豆之山脈。蜿蜒起伏。至於此而盡。乃我南門也。不置官司。以鎮上焉。則民不能安其業。嗚呼。民安其業。吏修其職。庶幾不違新政拓疆之盛旨也歟。

參議兼內務卿從三位勳一等大久保利通撰文并篆額

太政官大書記官從五位日下東作書

大日本國紀元二千五百三十七年
明治十年十一月建

廣群鶴刻

東京神田區神田五軒町十八番地 弘令社

社主 小笠原美治

編輯 同 八

印刷 吉野朝計

明治十三年五月新刷

專賣書肆

大坂心齋橋通

吉岡平助

大日本歌集

七	三		
〇	四	三二	仁
册	號	架	函

第三十二卷
共七册